

科目名	専門演習Ⅲ Seminar III						
科目担当者	奥村 憲博 OKUMURA Norihiro						
単位数	4	配当年次	4年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 演習]				ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	ホモサピエンスが築いた文明及びIoT及びエネルギー転換が主導する産業革命の大きなトレンドを通して大局観を掌る「鳥の目」及びデジタル変革、地球温暖化及びその対応策としての脱炭素化等の様々な分野へのインパクトを踏まえ、経済価値と社会価値の共有価値の創造(CSV(Creating Shared Value): 共有価値の創造)が重要性を増していくトレンドから習得した「魚の目」、さらには学部の専門科目で学んだ「虫の目」の視点も踏まえ、地域産業・企業振興並びに産学官連携等の在り方について研究してきたことをベースに、卒論テーマ等を設定し、卒業論文として仕上げる。						
授業の到達目標	<p>①専門演習Ⅰで身に付けた現代の社会における課題を見つけ、解決・改善に向けて主体的に対応する力(課題発見力・問題設定力・対応力)をベースに卒論テーマの設定にて、その実践力をつける。</p> <p>②専門ゼミ演習Ⅰ・Ⅱで涵養してきた未来社会の創造力を活かし、卒論に取り組むことで未来社会等を構想するための考える力及び判断力(専門力・読解力・思考力・判断力)を集大成することで総合的な力を強化する。</p>						
授業計画・内容	1	ガイダンス	16	洋書の輪読4(Chapter4)			
	2	卒業研究の研究計画, 作成, 発表の仕方	17	卒業研究の進捗報告 4-1(ゼミ生3~4人)			
	3	卒業研究の計画報告1(ゼミ生3~4人)	18	卒業研究の進捗報告 4-2(ゼミ生3~4人)			
	4	卒業研究の計画報告2(ゼミ生3~4人)	19	卒業研究の進捗報告 4-3(ゼミ生3~4人)			
	5	卒業研究の計画報告3(ゼミ生3~4人)	20	英文ペーパーの解説2(ゼミ生3~4人)			
	6	卒業研究の進捗報告 1-1(ゼミ生3~4人)	21	卒業研究の進捗報告 5-1(ゼミ生3~4人)			
	7	卒業研究の進捗報告 1-2(ゼミ生3~4人)	22	卒業研究の進捗報告 5-2(ゼミ生3~4人)			
	8	卒業研究の進捗報告 1-3(ゼミ生3~4人)	23	卒業研究の進捗報告 5-3(ゼミ生3~4人)			
	9	卒業研究の進捗報告 2-1(ゼミ生3~4人)	24	卒業研究の進捗報告 6-1(ゼミ生3~4人)			
	10	卒業研究の進捗報告 2-2(ゼミ生3~4人)	25	卒業研究の進捗報告 6-2(ゼミ生3~4人)			
	11	卒業研究の進捗報告 2-3(ゼミ生3~4人)	26	卒業研究の進捗報告 6-3(ゼミ生3~4人)			
	12	卒業研究の進捗報告 3-1(ゼミ生3~4人)	27	卒業研究の発表 1(ゼミ生3~4人)			
	13	卒業研究の進捗報告 3-2(ゼミ生3~4人)	28	卒業研究の発表 2(ゼミ生3~4人)			
	14	卒業研究の進捗報告 3-3(ゼミ生3~4人)	29	卒業研究の発表 3(ゼミ生3~4人)			
	15	英文ペーパーの解説1	30	卒業研究の発表 4(ゼミ生3~4人)			
授業外学修 (事前学修)	毎回、各自の卒論関連ペーパー等のプレゼン及び卒論進捗報告を実施するのでその準備対応を行う(毎週2時間程度)。						
授業外学修 (事後学修)	毎回、各自の卒論関連ペーパー及び卒論進捗報告に対するコメント対応を行う(毎週2時間程度)。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	卒論 ゼミでのプレゼンテーション				60%	①、②	
				40%	①、②		
成績評価基準	秀: (評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優: (評点 80 点~89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良: (評点 70 点~79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可: (評点 60 点~69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可: (評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合						
教科書	宮崎産業経営大学経営学会編 [2023] 『学生論文集 2023 年度』 宮崎産業経営大学経営学部。 宮崎産業経営大学経営学会編 [2022] 『学生論文集 2022 年度』 宮崎産業経営大学経営学部。						
参考文献							
その他							